第 2011-03 号

恵みと真理のニュース

2011 年 9 月の一次　恵みと真理教会
大韓民国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 価値観の変化を介して平安を得るようになりました。

私は、信仰の家庭で生まれ育ちました。良い信仰の環境中で育っちましたが、主様への愛がなく形式的な信仰生活をしながら世間的な価値観を持って生きていました。2000年度に出会った不信者と結婚しました。

結婚後一緒に教会に通うことを約束しましたが夫は結婚後教会に出ておらず、私も教会へまれまれ通っている途中、それさえやめていました。ちょうどその頃、恵みと真理教会に通う首席区域長が福音紙を配りに來て一緒に教会に行きましょうと伝道しました。私はその方に感謝するどころか、疎かにしました。

しかし、区域長は私を導き出すため着実に訪問して伝道しました。結局、その方の真心を拒むことができなくて、その方に連れ去れ2006年恵みと真理教会に出るようになりました。以前は小さな教会で自分勝手に礼拝生活をしましたか、　組織化された教区に所属して信仰生活をするのがなぜか息苦しく感じられ適応するのが苦しかったです。私のために切に祈って、変わることなくけんこしてくださる首席区域長の愛にもかかわらず、一時的に教会を離れることもありました。しかし、その時も私を理解して毎週訪問して福音を伝えながらやさしく勧めてくださるその姿にだんだん感動されました。言葉だけで伝道するお方でなく、それこそ生きる姿を通じてその人格的な立派な姿に導きされもう一度恵みと真理教会に出るようになりました。首席区域長は一週間に一回礼拝を捧げるよりも平日の礼拝にも出て講話説教を聞くともっと御言葉の恵みを経験することが出来るので平日の礼拝と祈り会の参席を勧めました。そのような勧めに全く耳を傾けていない私でしたが首席区域長自身が自ら実践しながら導いてくれだから従順するようになりました。平日の礼拝や祈祷会に出席しながら驚くほどの恵みをたくさん受けて私の考えの視点が変化し始めました。私は信仰生活をすると約束した夫が教会に出ないのを非難して戦になる伝道をしてきましたが、首席区域長が直接優しく人格的に夫を勧めると夫は何の抵抗感なしに教会に出るようになりました。その様子を見ながら伝道は相手の目の高さに合わせて導いてくれるのだと分かりました。不足な私の知恵を頼って夫を判断しあせる思いを後悔しました。そして、小さい家に不満をもっていましたが今はその家への不満をはたいてしまうことになり、その家の中で平和を享受するようになりました。内の家族全員が一緒に暮らすことができ、あまり苦もなく生きることについて幸せになり感謝することができました。また、健康な二人の娘を授けてくださったことも感謝することができました。イエス様が価値のあるものは決して大家と学閥、名誉などこの世のものでありません。でも、自らそのようなものと比較意識と劣等感や傲慢のことで自分自身を締め付けて不幸だという考えで生きてきました。しかし、それが人間中心の誤った観点であることがわかりました。イエス様の心で考えて、イエス様の視点で見始めたので世界が違って見えました。イエス様が私と共におられることを考えると富の意識ができ、比較意識と劣等感を抜け出すことができました。その多くの歳月の間を教会に通いましたが主様のご希望が何なのか関心を持っていなかったため、世間的な価値観を持ってその下で苦しんで生きていたのでした。しかし、ありがたいことは恵みと真理教会で説教を聞いてから2009年度に変化を体験することが出来ました。2009年に子供教会学校の教師奉仕を始めました。子供教会の年齢の子供だから耐えできるだろうと考えました。しかし、組みの子供のうち、片親家庭の男の子がいました。どれだけ反抗的であったからどのように近づいて行けばよいがわかりませんでした。まったく話を聞くこともなく、学ぼうともしませんでした。神の助けなしには教師奉仕を手におえることができないことを痛感しました。礼拝のたびに伝道師先生はその子のために祈ってくださいました。教師たちも心を合わせて祈ってくれました。神の恵みによって最終的にその子が礼拝をよくささげる子供になって、心の平安を持つようになりました。この過程を通して一人の魂がどれだけ大事なのかを切実に悟って神様に感謝しています。以前には、私の子供をたまに教会に連れて行きましたがその子の変化する姿を見てから礼拝生活の重要性を深く悟って、毎週私の子供を教会に連れて行くようになりました。長い問信仰生活をしていましたが私の必要によって祈って、あまりにも柔弱だった私を恵みと真理教会へ導いてくださった神様に感謝しています。これからは、どんな大きい困難にも耐え忍ぶ丈夫な信仰をもって成長することを希望して、また私に導いてくださった信仰の先輩のように立派な働き者として成長し、優しく信仰人で聖徒たちを熱心に助けて生きます。

［信仰コラム］　どのように祈るべきですか。

ときにアマレクがきて、イスラエルとレビデムで戦った。モーセはヨシュアに言った、「われわれのために人を選び、出てアマレクと戦いなさい。わたしはあす神のつえを手に取って、丘の頂に立つであろう」。ヨシュアはモーセが彼に言ったように従ってアマレクと戦った。モーセとアロンをおよびホルは丘の頂に登った。モーセが手を上げているとイスラエルは勝ち、手を下げるとアマレクが勝った。しかしモーセの手が重くなったのでアロンとホルが石を取って、モーセの足もとに置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはあちらにいて、モーセの手をささえたので、彼の手は日没までさがらなかった。ヨシュアはつるぎにかけてアマレクとその民を打ち敗った。"（出１７：８～１３）祈りに関連して私たちが知っておくべきことをまとめた二つの質問があります。『なぜ祈る必要がありますか』と『どのように祈るべきですか。』と言う二つです。『なぜ祈る必要がありますか』に続いてまた、『どのように祈るべきですか。』の質問に対する答えを見てみましょう。第一は、まず神に祈る資格を得る必要があります。その資格の条件は基本的に2つです。神の助けを慕って渇望する心を持たなければなりません。

主の前に出て来て問題の解決を受けた人々から見られる共通点は、主の助けを得ようと熱く熱望している姿です。そして、神の子になる必要があります。イエス･キリストを信じれば神の子になる資格が与えられます。神の子になったら神様の恵まれた御座の前に進むことができるし、神様に何でも求めることができます。第二は、信仰によって求めることがあります。困難や苦痛が重ねて何日間続くと私たちの心には神様の助けに疑問が生じます。信じられないときはまず、信頼を求めるべきです。疑いをすべて退けて不動の信仰を持って祈る必要があります。疑いを完全に制御するには疑いを起こす対象へ心を奪われないように気をつける必要があります。能力の大きい神、忠実の神について思ってみて下さい。神様が解決できない問題はありません。第三は、祈った後は最善を尽くして努力し、祈る必要があります。イスラエルの子らが積極的なアマレク人と戦っで勝利を得た本文の事件は聖書が示す模範的な事例です。現実に降りかかる問題を解決するために最善を尽くして努力しながら祈るべきことを教えています。そして、祈りながら神の指示を受けて、そのままの働きを行わなければならない場合もあります。モアブとアモンとマウン人々が連合軍を編成してユダを侵略しようとエゲデに集結したので、ユダの国ヨシャパテ王は恐れて神に切実に祷り求めまして、ユダヤの全国民に断食祈りを公布した。神様が預言者を使わしていただいた御言葉のとおりに従いました。

すると神様は連合軍の間に分裂と争いを起こして被差殺戮するので、全滅状態になる不思議な事を行いました。第四は、集中的に祈るべきです。二人以上の多数の人が同じ題目を置いて心を合わせて祈る必要があります。イエス様は聖徒たちが一緒に集まって祈れば答えると約束されました。そして、作定の祈り、徹夜の祈り、断食の祈りとして集中的に祈れば答えを受ける恵みがたくさん体験出来ます。第五は、主が契約された御言葉を握って祈る必要があります。神は真実で全能のみかみです。聖書に約束されたすべての御言葉は必ず叶われます。神の約束には神様の実践意志が内包されています。神の約束と無関係の祈りは神様が答える責任はありません。ですが、神が約束された御言葉に基づいた祈りは神様が責任を負って下さいます。約束の御言葉を握って祈る必要があります。答えを受ける祈りをするためには聖書をたくさん読まなければならない理由がここにあります。第六は、回答を受けるまで祈らなければなりません。神様がわたしたちの祈りに答えるときを我々は知りません。ちょうど私達が知ることは、祈る者に最善と回答してくださると言った約束があるからです。我々が望むように叶えなくても神様は善な他の計画を持っておられます。したがって、最終的な結果になるまで持続的に信じて祈る必要があります。このような祈りの姿勢をカルメル山の頂上に登って雨を降らしてくださいと切に祈ってたエリヤから学ぶ必要があります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

信仰生活に必須的な三徳や三要素

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：テサロニケ前１：２-３

パウロ使徒はテサロニケ教会に送った手紙の冒頭に次のように書きました。**『わたしたちは、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス.キリストに対する、希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。』**（テサロニケ前１：２-３）と記しました。
パウロ使徒がテサロニゲ教会の人たちによって神様に感謝の祈りの題目を得て、これを手紙で書き記しテサロニゲ教人たちを誉れと励ました内容は**『信仰によって働き、愛のために労苦し、希望を持って忍耐している』**でした。
信仰と希望と愛は信仰の徳目で要素です。しかし、パウロ使徒は信仰には働きを愛には苦労を希望には忍耐と言う言葉を付けています。
キリスト人でなくでも信仰、希望、愛は誰でも願い求める言葉です。しかし、実のキリスト人が願い求める信仰、希望、愛は本質的に違います。働き、ご苦労、忍耐と言う言葉はその違いを現しています。
テサロニゲひとに限らずクリスチャンなら誰でも信仰によって働き、愛のために労苦し、希望を持って忍耐していることは当然にあることです。

第一、＜信仰の働き＞と書きました。

働きとは行為を意味します。パウロ使徒はローマ書とカラデア書で行為たけでは救いを得ないと述べています。
しかし、ここでは信仰の行為といって信仰と行為を並んで結びつけています。それではローマ書、カラデア書とヤコボ書を相互に比較する必要があります。　ローマ書３章２０節 には
『律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。』と記しています。
そして、２２節以下では**『すなわち、イエス.キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト.イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。』**（ローマ書３：２２-２４）
２８節では**『なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。』**（ローマ書３；２８）
ローマ４章には**『もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。
聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」とあります。』**（ローマ書４：２-３）
しかし、ヤコボ書は相反する御言葉か記録されているように見えます。
２章１４節に**『わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。』**（ヤコボ２：１４）そして、アブラハムを例で説明しています。
**『ああ、愚かな者よ、行いの伴わない信仰が役に立たない、ということを知りたいのか。
神がわたしたちの父アブラハムを義とされたのは、息子のイサクを祭壇の上に献げるという行いによってではなかったですか。』**（ヤコボ２：２０-２１）
イサクは神様がアブラハムに約束した通りに　100才で産んだ独り息子でした。
ところがある日、神はアブラハムに**『あなたのあいするイサクを連れて行って私が示す山に上って捧げ物として焼きなさい』**と命じました。
アブラハムは神様の命じに従いました。
これについてヘブライ書 11章て記録されたのは
『信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです。この独り子については、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われていました。アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいましたが、それは死者の中から返してもらったも同然です。』（ヘブライ１１；１７-１９）
アブラハムが神様の命じに従ったのは、その背景に神様の約束を信じる信仰によるのでした。
信仰と結び付いた行いとは神様の約束について少しも動揺のない信仰と言う意味です。
ヤコボ書は次のように結論を出しています。
『アブラハムの信仰がその行いと共に働き、信仰が行いによって完成されたことが、これで分かるでしょう。魂のない肉体が死んだものであるように、行いを伴わない信仰は死んだものです。』　（ヤコボ２：２２）
ですから、救いに至る信仰には神様が約束した通りに世に下り救いの働きを完成して復活されたイエスキリストを唯一の救い主で受け入れ、信仰によって当たるどんな惑いや迫害や試みにも動かない行為が伴われます。
ヘブライ 11 章は信仰で生きた人々に関する記録ですが言葉だけではなく神と神の約束に対する信仰を行いによって証した事実の記録です。
**『信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、燃え盛る火を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強い者とされ、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させました。
女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまさったよみがえりに達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。』**（ヘブライ１１：３３-３５）
テサロニゲの信徒は初信仰の人たちでしたが信仰の先達の人と違わない惑いや迫害、艱難や試みを与えても屈服せず動かない行いを伴われた信仰の所有者でした。
このような事実を知ったパウロ使徒は神様に感謝を捧げる反面、彼らを誉れと励まして上げたのです。

第二、愛のご苦労と書きました。

愛は好かれる以上です。好きになることは犠牲を伴いません。好きになるのは自己重心だからです。
愛には犠牲が伴います。ご苦労が伴います。自己重心ではなく愛する対象重心だからです。
クリスチャン達が表現する愛は主イエス.キリスト中に現われた神様の愛によって刺激されて感動から溢れて出る愛で、また主様へ対する愛によるのです。
このような愛を表現するためにご苦労と犠牲を喜んで行うことが出来ます。イエス様が公生涯働きの終り頃、ベタニアと言う村に住んでいるナザロの家に訪ねて行きました。その家にはナザロの妹マルダとマリアが一緒に住んでいました。その時、マリアがナルドの香油の入った石膏の壷を持って来ました。ナルドの香油の入った石膏の壷は処女が嫁入りの時必ず持って行く物で非常に高価です。どころがマリアがそれを壊してイエス様の頭に注ぎかけました。
イイスカリオテのユダは香油を無駄使いするのかと怒りを出しました。
イエスはこれを知って言われた。「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。わたしを葬る準備をしてくれた。はっきり言っておく。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」とおっしゃいました。
主様に対する愛をマリアは自分が持っている全財産のようなナルドの香油の入った石膏の壷を壊して注ぎかけたのです。
四人の男が中風の人を運んで来た。香油の入った石膏の壷を壊したマリア。私たちが行う愛のご苦労はこのように二つの方面で行われます。聖徒たちを愛して仕えるご苦労があります。また、不信者をイエス様の前に導くためのご苦労があります。
本文に〈ご苦労〉という翻訳された単語は疲れるほどの労動、またはあごを出すほどのつらい事を意味します。
皆さんの心中にイエス.キリスト中で神様の愛が注いだところになり、これによる主に対する愛が心中で火のように燃え上がるのを願い求めます。そして、この愛を表現するため身元になる教会を仕えて聖徒を仕えて不信者を教会へ導くためのご苦労が大きい特権であり喜びであり幸せになってほしいです。

第三、 希望の忍耐と書きました。

ここで言う希望はキリスト中で神様が共にしてくださって、助けてくれるのを期待するから持つようになる希望です。ローマ書５；３-４には**『そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。』**
（ローマ書５；３-４）このような希望です。
ローマ書８章；２８節には
『神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。』（ローマ８；２８）このような希望です。
また、イエス.キリストの再臨とそれに伴う我が身の復活、主様から下さる誉れと励ましいそして、新しいエルサレムに対する希望です。
このような希望による忍耐です。このような希望に鼓舞された忍耐です。
我々が主.イエスによる希望を持った人はどんなご苦労と艱難と圧迫でも落胆せず耐え忍びます。
主.イエス様が約束した通りになるのを希望するから十分耐え忍びます。
信仰、愛、希望は誰でも願っています。しかし、クリスチャンにある信仰の愛と希望は特別です。＜信仰によって働き、愛のためにご労苦し、またわたしたちの主イエス.キリストに対する、希望を持って忍耐していること＞の表現を通してその本質は明らかに現しています。これは信仰にあって必須い徳目と要素です。信仰によって働き、愛のためにご労苦し、またわたしたちの主イエス.キリストに対する希望を持って忍耐することが皆さんの生活の中でいつも満し溢れるように祝福いたします。